

ART 出生時における乳幼児発達スケールを用いた予後調査

高門千絵*1、佃笑美*1、柴田美智子*1、橋本知子*1、佐藤学*1、中岡義晴*1、森本義晴*2

IVF なんばクリニック*1、HORAC グランフロント大阪クリニック*2

【目的】

高度生殖補助医療（ART）による出生児が増加し、予後調査の重要性が高まっている。凍結融解胚移植での出生児は新鮮胚移植に比べ重いと報告されているが、その後の乳幼児の発達については詳しく検討がされていない。そこで今回は、ART、non-ART 間で発達の違いと出生時体重と 1 歳半時体重で差があるかを検討した。

【方法】

2008 年、2011 年および 2015 年 2 月から 6 月までに当クリニックで単胎妊娠後分娩し、アンケート協力に同意を得た夫婦 238 組を対象とした。発達の指標として KIDS スケール得点を用い、1 歳半時における ART と non-ART、受精方法、凍結融解胚移植と新鮮胚移植、および分割期胚移植と胚盤胞移植での出生時体重と 1 歳半時体重、また 1 歳半時における発達に差があるかを検討した。

【結果】

ART と non-ART では出生時の体重に差はなかった。(3083.4 g vs. 2945.4g) また、凍結融解胚移植は新鮮胚移植に比べ出生時の体重が重かったが(3118.0g vs. 2919.5g) 1 歳半時の体重では差は認められなかった。ART と non-ART、conventional IVF と ICSI、凍結胚移植と新鮮胚移植、および分割期胚移植と胚盤胞移植すべてにおいて運動発達、操作発達、理解言語発達、表出言語発達、概念発達、対子ども社会性発達、対成人社会性発達、しつけ発達、食事発達、総合発達に差はなかった。

【考察】

今回の調査では従来の報告通り凍結融解胚移植では出生時の体重が重くなる結果となった。しかし児の発育に伴い体重の差はなくなった。また、1 歳半時の KIDS スケールによる発達調査ではすべての項目において治療内容にかかわらず違いはなかった。本調査の結果、児の発達には ART および ART 関連技術が与える影響は 1 歳半時では少なくともみられなかった。今後も長期的な調査を続けていく必要がある。